

(公財)神戸大学六甲台後援会だより (29)

第5回凌霜賞の授与式

去る6月15日午後、当後援会創立50周年を記念して創設された凌霜賞(正式には社会科学特別奨励賞)の第5回授与式が、出光佐三記念六甲台講堂で挙行されました。式典壇上には、法・経済・経営の3研究科長兼学部長と国際協力研究科長・経済経営研究所長および凌霜会の高崎正弘理事長をはじめとする副理事長、若干の理事の皆さんのご列席を頂き、また多数の凌霜会員のご出席を得ました。

今回の受賞者は、以下のように計29名でありました。法学部では、中島智史(2年生)、牛濱裕輝(3年生)、森朋美(4年生)、経済学部では、北脇大資(2年生)、森中蓉子(3年生)、LUKASHENKA SACHEI(4年生)、経営学部では、土江綾(2年生)、吉住友宏(3年生)、呉懿(4年生)、大学院では、法学研究科前期課程の陳穎(1年生)、後期課程の蔣雪勤(1年生)、山下朋子(3年生)、それに専門職学位課程(いわゆる法科大学院)の多田晋作(3年生)、経済学研究科前期課程の中野洋輔(1年生)、田中拓朗(2年生)、後期課程の中井美和(2年生)、山本裕基(2年生)、経営学研究科前期課程の姚凌(1年生)、北田智久(1年生)、森脇敏雄(2年生)、宋娟貞(2年生)、後期課程の塩谷剛(3年生)、天王寺谷達将(3年生)、範超(3年生)、大村鍾太(3年生)、さらに国際協力研究

科では前期課程の細川由衣(1年生)、土岐茂里(2年生)、後期課程の池永伊奈生(3年生)、河野佐智(3年生)の諸君がそれです。

式典では、財団常務理事で神戸大学副学長の田中康秀教授の司会で、新野幸次郎当財団理事長および凌霜会の高崎正弘理事長のご挨拶のあと、新野理事長から各受賞者に賞状が授与され、副賞は所属学部長兼研究科長から渡されました。受賞者を代表して、経済学部から森中蓉子、博士前期課程から田中拓朗、後期課程から山本裕基からというように今回は経済学関係の諸君が次々に受賞のお礼と今後の決意を表明しました。副賞としては、学部および博士課程前期課程の学生、院生諸君には60万円が(ただし経営学研究科前期課程の4名には各30万円)、後期課程院生の諸君には海外での学会報告などのための派遣費が授与され(行き先などによって個人差があります)、全体では1,420万円があてられました。お気付きになるように留学生も7名受賞しています。新野理事長も式典挨拶で述べていましたが、凌霜賞は、母校の発展を祈る卒業生の皆さんの切望によって設けられたものです。受賞者の皆さんは今後益々学術的だけでなく、人間的な研鑽をも期待したいと思います。

六甲台後援会の主要事業

先日もある凌霜会員から、六甲台後援会が母校の教育・研究にどれだけ貢献しているのか、その主要な活動内容について紹介してほしい、それによって私たちも、もっと基金充実のために貢献したいと思うようになると思う、と言われました。そういうえばこれまで

皆さんに十分説明してきたとは言えませんが、これからはこの貴重なご注意にも配慮しながら進めたいと思いますので、どうかよろしく願います。今回は、まずごく大まかなご報告をさせていただきます。

六甲台後援会は、現在正味財産は15億円強で、そのうちの投資有価証券と学術教育助成特定資産の金利収入によって運営されています。事務局職員は2名、理事8名、監事3名、評議員12名で運営していますが、事務局を除きますと全役員無給で、旅費も自己負担、全員母校のための奉仕活動を行って頂いています。毎年若干の変動はありますが、平成23年度には総額で4、100万円余の、以下に述べるような支援をさせて頂いています。

まず、第1に、教員海外派遣助成費1、529万円余で、これによって19名の教員が、数日の学会発表、調査活動などのほか、10カ月あるいは、3カ月の在外研究など、さまざまな形の活動助成を行っています。第2に、各研究科や経済経営研究所などが主催する国内外の学会やシンポジウムなどへの助成で計127万円余、第3に、学術書出版が極めて難しくなっている状況に対処するための刊行助成で3冊分計338万円、第4に、大学院生諸君の外国での学会報告の出張を支援するための奨学金で、法学研究科と国際協力研究科の学生計8名で総額287万円余と、初代神戸商業大学学長・田崎慎治先生の名を冠した奨学金による2名の院生に対する奨学金計20万円の支給、第5に、最初に紹介した凌霄賞（社会科学特別奨励賞）の1、420万円と、以前本欄でご紹介したことのある3学部学生諸君に対する相互履修科目開講、経済学部では、エッセンシヤ

ルマクロ経済学とエッセンシヤルミクロ経済学、経営学部では、エッセンシヤル会計学とエッセンシヤル経営学、法学部ではエッセンシヤル商法とエッセンシヤル民法とを開講し、各学部学生で所属学部以外の科目を2科目以上履修した者に修了認定書を授与する制度）のための講師謝金計100万円余などが、それであります。これら以外にもいくつかの助成を行っており、教員の皆さんには大変感謝されています。

ご承知のように、寄付文化の伝統をつつた米国の諸大学では、ハーバード大学の4兆円（リーマン・ショック以前）ほどの基金設定のほか、有名大学がこぞって巨額の基金を持ち、つい最近、英国のオックスフォード大学総長が某新聞でも大きく取り扱われていたように、大学のグローバル化が展開されている今日、英国の大学でもより大規模な基金づくりをしなければ大學存立が難しくなると力説していましたが、同じ事情はわが国でも言えます。ことに最近、日本の国家戦略会議は、グローバル化の中で、日本の大学の充実を図るために、残念ながら財政的支出を強化する形ではなく、弱小大学を統合して充実を図るといった方策で対応しようとしています。こういう動向の中で、わが母校が存続、発展できるようにするには、神戸高等商業学校、神戸商業大学以来の伝統と特色を生かすだけでなく、さらにそれを強化していくことが不可欠です。そのために工夫しなければならぬことは、実に多いと言わなければなりません。先ほどの卒業生のご発言のように、その基金づくりの動機を強化するために、私たちに課せられていることは山ほ

どあります。どうか、皆さんご協力ください。

今回の寄付金について

基金づくりといえば、凌霄会の皆さんは母校のために本当にご尽力を賜りありがとうございます。今号でも以下のようにご寄付を頂くことができました。謹んでご報告申し上げます。まず、元経済学部教授で、現在、「(株)自然総研」社長の大久保裕春様からの100万円をはじめ、匿名希望者様(昭35・法)の200万円、森安陸夫様(昭31・経済)10万円、堀功郎様(昭32・法)5万円、藤井清様(昭21)20万円、柿聰様(昭36・経営)10万円、鶴浩一様(昭32・経済)5万円、升谷博様(昭31・経営)1万円、幸ゼミ(新野ゼミ)様45万円、和辻昇様ご遺族様(昭28・経営)1万円、樹田高秀様(昭32・経済)3万円、カナフレックスコーポレーション(株)社長の金尾茂樹様(昭48・経営修)110万円、の皆さんがそれです。ありがとうございます。

最近、とりまとめられました神戸大学財務部の資料を見ても、神戸大学の受託研究、寄付金、科学研究費補助金等から構成されている外部資金の獲得額は、全国立大学法人中、9位または10位でしかなく、7つの旧帝大、特に東京大学のそれに比べると僅かに9分の1ほどで、年ごとに筑波大学、千葉大学と順位を競っている状況です。これとは別に、文科省からの運営費交付金の格差を考えると、大学間格差は広がってゆかざるを得ません。この格差拡大を少しでも押し止め、わが母校関係学部の発展を図るために、凌霄会員の皆

さんの一層のご協力をお願いする次第です。

なお、毎回申し上げますように、当公益財団へのご寄付は確定申告をされます際、所得税控除の対象となります。ご寄付手続きは次の通りでありますので、よろしくお願いいたします。

◎銀行送金の場合(銀行からの連絡に時間がかかり、領収書送付が遅れないようにするため、お葉書でも電話・FAXでも結構ですから、ご送金について事務局までご一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 40669496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合(通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください)

口座番号 0098019116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人 神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 86113013

E-mail: rokodai@kobe-u.com